



平成30年12月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成30年8月8日

上場会社名 グリーンランドリゾート株式会社
 コード番号 9656 URL <http://www.greenland.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 江里口俊文
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営管理室長 (氏名) 寺田尚文
 四半期報告書提出予定日 平成30年8月13日 配当支払開始予定日 平成30年9月3日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東 福

TEL 0968-66-2111

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年12月期第2四半期の連結業績(平成30年1月1日～平成30年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年12月期第2四半期	3,695	2.3	178	16.7	167	16.5	120	12.2
29年12月期第2四半期	3,781	21.5	214		200		136	

(注) 包括利益 30年12月期第2四半期 103百万円 (24.4%) 29年12月期第2四半期 136百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年12月期第2四半期	11.61	
29年12月期第2四半期	13.22	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年12月期第2四半期	21,608	10,945	50.7	1,058.77
29年12月期	21,797	10,903	50.0	1,054.76

(参考) 自己資本 30年12月期第2四半期 10,945百万円 29年12月期 10,903百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年12月期		5.00		6.00	11.00
30年12月期		5.00			
30年12月期(予想)				5.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年12月期の連結業績予想(平成30年1月1日～平成30年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	7,900	3.1	460	3.4	430	1.8	280	4.5	27.09

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- | | |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更 | : 無 |
| 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年12月期2Q	10,346,683 株	29年12月期	10,346,683 株
期末自己株式数	30年12月期2Q	9,253 株	29年12月期	9,253 株
期中平均株式数(四半期累計)	30年12月期2Q	10,337,430 株	29年12月期2Q	10,337,430 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、現在当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想ご利用に当たっての注意事項については、〔添付資料〕4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におきましては、九州の遊園地において、競合テーマパークの撤退に伴い、学校団体をはじめとする新規顧客の獲得もありましたが、書き入れ時であるゴールデンウィーク期間の集客数が思うように伸びず、またゴルフ場ならびにホテルの利用者数も減少いたしました。

北海道におきましては、5月のゴールデンウィーク期間が雨天に見舞われた影響が大きく、遊園地事業に加え、ホテル事業も低調に推移いたしました。

土木・建設資材事業におきましては、バイオマス火力発電所への燃料投入業務受託ならびに客土用土の製造・運搬が好調に推移し、グループ全体の業績を下支えいたしました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は3,695,617千円（前年同期比86,314千円減）となり、営業利益は178,827千円（前年同期比35,918千円減）、経常利益は167,302千円（前年同期比33,107千円減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は120,019千円（前年同期比16,637千円減）となりました。

項 目	当第2四半期 連結累計期間 (千円)	前第2四半期 連結累計期間 (千円)	増減額 (千円)	増減率 (%)
売上高	3,695,617	3,781,932	△86,314	△2.3
営業利益	178,827	214,746	△35,918	△16.7
経常利益	167,302	200,410	△33,107	△16.5
親会社株主に帰属する四半期純利益	120,019	136,656	△16,637	△12.2

報告セグメントごとの業績は、次のとおりであります。

① 遊園地セグメント

九州の『グリーンランド』におきましては、冬季の集客拡大の取り組みとして、冬休み期間と週末毎にイルミネーションイベント「光のファンタジー」を開催し、新登場のスカイリフトの「光のカーペット」をはじめ、園内100カ所以上のイルミネーションスポットにて、お客さまに幻想的な夜の遊園地をお楽しみいただきました。

春には、2大イベントを開催し、ファミリー層を中心に集客を図りました。まず一つは、女兒に絶大な人気を誇るキャラクター「プリキュア」をテーマとした『HUGっと！プリキュア おいでよ！はぐっとマイタウン』を開催し、各種オリジナルの展示物や様々な仕掛けにより、「プリキュア」の世界を体感できるイベントとして、好評を博しました。

もう一つは『仮面ライダービルド バトルステージ』と題し、男児に人気の高い「仮面ライダー」を主役に、火薬や映像演出を用いて、巨大なライブステージを縦横無尽に立ち回る、大迫力のアクションショーを展開いたしました。

更に、5,000発の花火が舞い上がる春の花火大会「HANABI フェスティバル」、「横山だいすけスプリングコンサート」、「はたらくクルマ大集合」等の開催により、話題性の喚起とともに、幅広い層の集客を図りました。

施設面においては、既存の飲食店舗を「Honey Bunny(ハニーバニー)」としてリニューアルオープンさせ、彩り豊かなスイーツ等、真新しいメニュー展開でお客様に喜ばれております。

その他、イルミネーションイベント「光のファンタジー」におきまして、新たに全長100メートルの動くイルミネーション「フェアリーダンス」を登場させ、軽快な音楽とともに華やかな空間を創出いたしました。

以上の結果、熊本地震発生以降に落ち込んだ修学旅行等は、新規団体客を含めて次第に回復しておりますが、ゴールデンウィーク期間での集客数が伸び悩み、利用者数は前年同期比34,252人減少の367,090人となり、売上高は前年同期比23,612千円減少の1,673,532千円となりました。

『北海道グリーンランドホワイトパーク（スキー場）』におきましては、1月後半の降雨や小雪の影響による営業期間の短縮により、利用者数は若干落ち込みましたが、売上高は前年同期を上回りました。

『北海道グリーンランド遊園地』におきましては、春の開園初日より、根強いファンを持つ「わんわん大サーカス」のロングラン公演を行い、ゴールデンウィーク期間中には、2本立てのキャラクターショーを開催することで集客を図りましたが、5月初旬の悪天候が大きく影響し、利用者数は減少いたしました。

また、昨年オープンいたしました「カード迷路 ぐるり森大冒険」に新たに20種類のカードを取り入れ、リピーターの獲得を図りました。

また、『いわみざわ公園管理』におきましては、「パークゴルフ場」の利用者数の減少がありましたものの、「色彩館」につきましては、各種イベント開催や新聞・テレビ取材等のPRが奏功して利用者数を伸ばすなど、全体として堅調に推移いたしました。

この結果、北海道の遊園地ならびにスキー場を合わせた利用者数は前年同期比13,606人減少の91,658人となり、売上高は前年同期比33,084千円減少の305,221千円となりました。

以上の結果、利用者数は前年同期比47,858人減少の458,748人となり、売上高は前年同期比56,696千円減少の1,978,753千円となりました。

② ゴルフセグメント

ゴルフ事業におきましては、樹木の剪定・伐採やカート道路の補修等、お客様目線に立ったプレー環境の整備や改善に注力いたしました。

また、堅調な韓国人ゴルファーの受入れ体制を強化し、更なる集客拡大ならびに新規会員権販売に努めました。

『グリーンランドリゾートゴルフコース』におきましては、多彩な機能を持つ最新鋭のナビゲーションシステムをPRするとともに、ナビゲーション付カートを増台して、各種コンペの獲得を図りました。

また、施設面では喫茶「マドリッド」のリニューアルをはじめ、トイレ等設備の改修を行い、顧客満足度向上によるリピーター拡大に努めました。

『大牟田ゴルフ場』、『広川ゴルフ場』の両メンバーシップコースにおきましては、新たにナビゲーションシステムを導入して、新規のコンペ獲得を図りました。合わせて、利用料金改定や新規会員の募集のほか、ポイントカード導入によるリピーターの利用促進に努め、運営基盤の安定化を図りました。

以上の取り組みの結果、利用者数は前年同期比6,378人減少の62,372人、売上高は、前年同期比42,829千円減少の466,321千円となりました。

③ ホテルセグメント

九州の『ホテルブランカ』におきましては、遊園地やゴルフ場に隣接する利便性に加え、キャラクタールームや客室の改装等のPR強化に努め、集客拡大を図りました。また、ウェブサイト予約を活用した幅広い宿泊プランの販売により、客室稼働率向上ならびに客単価の増加を図りました。

九州の『ホテルヴェルデ』におきましては、堅調なインバウンド客の受入れに加え、台湾・香港に対しても積極的な営業を展開し、平日を中心とした客室稼働率向上を図りました。また、好評な中庭でのバーベキューを開催したほか、地酒の会等、嗜好性の高い飲食イベントにも注力し、新たなファン層の獲得を図りました。そのほか、両ホテルにおいて、館内にデジタルサイネージ（電子案内表示）を導入し、お客様の利便性向上ならびに各種PR強化を図りました。

以上の取り組みを行いました結果、九州の『ホテルブランカ』ならびに『ホテルヴェルデ』を合わせた宿泊者数は前年同期比1,919人減少の32,782人となり、売上高は、前年同期比54,331千円減少の647,178千円となりました。

北海道の『ホテルサンプラザ』におきましては、リニューアルした客室のPRによる集客を図りましたが、ゴールデンウィーク期間の悪天候の影響もあり、宿泊者数は前期に比べ減少いたしました。

北海道の『北村温泉ホテル』におきましては、遊園地をはじめとする各レジャー施設との相乗効果を活かし、一般客のほか、スポーツ合宿等の団体獲得を図りましたが、宿泊者数は思うように伸びず、宴会及びレストラン部門も低調に推移いたしました。

この結果、北海道の『ホテルサンプラザ』ならびに『北村温泉ホテル』を合わせた宿泊者数は前年同期比1,624人減少の10,307人となり、売上高は前年同期比31,807千円減少の291,351千円となりました。

以上の結果、宿泊者数は前年同期比3,543人減少の43,089人、売上高は前年同期比86,138千円減少の938,530千円となりました。

④ 不動産セグメント

不動産事業における賃貸収入につきましては、昨年3月からのコンビニエンスストア用地の土地賃貸を含め堅調に推移し、売上高は前年同期比1,611千円増加の77,929千円となりました。

⑤ 土木・建設資材セグメント

土木・建設資材事業におきましては、バイオマス火力発電所への燃料投入業務の受託ならびに客土用土の製造・運搬業務が好調に推移し、売上高は前年同期比97,739千円増加の234,083千円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、21,608,400千円（前連結会計年度末比189,488千円減少）となりました。

① 流動資産

流動資産は、596,961千円（前連結会計年度末比163,152千円減少）となりました。これは主に、現金及び預金・受取手形及び売掛金が減少したことによるものであります。

② 固定資産

固定資産は、21,011,438千円（前連結会計年度末比26,336千円減少）となりました。これは主に、建物及び構築物が減少したことによるものであります。

③ 流動負債

流動負債は、3,921,497千円（前連結会計年度末比158,297千円減少）となりました。これは主に、1年内償還予定の社債・未払金が減少したことによるものであります。

④ 固定負債

固定負債は、6,741,894千円（前連結会計年度末比72,642千円減少）となりました。これは主に、長期預り金が減少したことによるものであります。

⑤ 純資産

純資産は、10,945,007千円（前連結会計年度末比41,450千円増加）となりました。これは主に、利益剰余金が増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年12月期の業績予想につきましては、平成30年2月14日に公表いたしました数値から変更はありません。なお、業績予想につきましては、現時点において得られた情報に基づき算出したものであり、実際の業績は今後の経済情勢の変化や事業運営におけるさまざまな状況変化によって、予想の数値と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	289,102	186,085
受取手形及び売掛金	236,963	140,302
商品及び製品	86,621	88,867
原材料及び貯蔵品	51,899	51,972
販売用不動産	7,130	7,130
繰延税金資産	23,504	33,513
その他	68,544	92,603
貸倒引当金	△3,653	△3,515
流動資産合計	760,114	596,961
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	4,075,520	4,028,855
機械装置及び運搬具(純額)	603,892	611,531
土地	15,048,522	15,048,522
その他(純額)	209,495	219,626
有形固定資産合計	19,937,430	19,908,536
無形固定資産		
その他	237,157	252,054
無形固定資産合計	237,157	252,054
投資その他の資産		
投資有価証券	373,287	349,547
繰延税金資産	302,580	302,790
退職給付に係る資産	121,878	135,159
その他	66,540	64,449
貸倒引当金	△1,100	△1,100
投資その他の資産合計	863,186	850,847
固定資産合計	21,037,774	21,011,438
資産合計	21,797,888	21,608,400

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	87,215	50,460
営業未払金	101,297	63,031
1年内償還予定の社債	100,000	—
短期借入金	3,140,636	3,329,204
未払金	359,182	263,476
未払法人税等	147,835	74,157
その他	143,628	141,168
流動負債合計	4,079,795	3,921,497
固定負債		
長期借入金	3,782,610	3,782,066
長期預り金	2,818,242	2,756,942
退職給付に係る負債	6,236	7,080
その他	207,448	195,805
固定負債合計	6,814,536	6,741,894
負債合計	10,894,332	10,663,392
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,180,101	4,180,101
資本剰余金	4,767,834	4,767,834
利益剰余金	1,853,729	1,911,724
自己株式	△3,033	△3,033
株主資本合計	10,798,631	10,856,626
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	104,925	88,381
その他の包括利益累計額合計	104,925	88,381
純資産合計	10,903,556	10,945,007
負債純資産合計	21,797,888	21,608,400

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年1月1日 至平成30年6月30日)
売上高	3,781,932	3,695,617
売上原価	3,249,101	3,222,823
売上総利益	532,830	472,794
販売費及び一般管理費	318,083	293,966
営業利益	214,746	178,827
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	4,242	4,711
受取賃貸料	3,831	3,846
受取保険金	86	791
雑収入	2,447	2,881
営業外収益合計	10,608	12,231
営業外費用		
支払利息	24,613	23,166
雑損失	331	590
営業外費用合計	24,944	23,757
経常利益	200,410	167,302
特別利益		
固定資産売却益	—	49
受取保険金	9,727	—
補助金収入	58,726	—
特別利益合計	68,453	49
特別損失		
固定資産除売却損	4,886	1,317
固定資産圧縮損	68,300	—
その他	4,559	—
特別損失合計	77,747	1,317
税金等調整前四半期純利益	191,117	166,035
法人税、住民税及び事業税	66,670	51,812
法人税等調整額	△12,209	△5,796
法人税等合計	54,460	46,015
四半期純利益	136,656	120,019
親会社株主に帰属する四半期純利益	136,656	120,019

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年1月1日 至平成30年6月30日)
四半期純利益	136,656	120,019
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	203	△16,543
その他の包括利益合計	203	△16,543
四半期包括利益	136,859	103,475
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	136,859	103,475
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位: 千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年1月1日 至平成30年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	191,117	166,035
減価償却費	214,845	222,480
退職給付に係る資産の増減額 (△は増加)	△3,155	△13,281
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	183	844
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△156	△138
受取利息及び受取配当金	△4,243	△4,712
支払利息	24,927	23,303
受取保険金	△9,727	—
補助金収入	△58,726	—
固定資産除売却損益 (△は益)	4,485	1,267
固定資産圧縮損	68,300	—
売上債権の増減額 (△は増加)	51,632	89,283
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△13,815	△2,318
仕入債務の増減額 (△は減少)	△112,609	△75,021
未払金の増減額 (△は減少)	5,516	△44,733
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△9,192	△12,811
その他	5,886	△31,316
小計	355,265	318,879
利息及び配当金の受取額	4,243	4,712
利息の支払額	△25,434	△23,641
保険金の受取額	9,727	—
法人税等の支払額	△17,840	△117,737
法人税等の還付額	22,832	1,275
営業活動によるキャッシュ・フロー	348,793	183,487
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△327,028	△224,689
有形固定資産の売却による収入	—	50
無形固定資産の取得による支出	△5,190	△20,205
補助金の受取額	58,726	—
その他	△176	10
投資活動によるキャッシュ・フロー	△273,669	△244,835
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△187,000	159,000
長期借入れによる収入	882,230	700,000
長期借入金の返済による支出	△794,894	△670,976
社債の償還による支出	—	△100,000
長期預り金の受入れによる収入	—	4,800
長期預り金の返還による支出	△58,100	△66,100
リース債務の返済による支出	△8,165	△6,413
配当金の支払額	△51,867	△61,979
財務活動によるキャッシュ・フロー	△217,796	△41,668
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△142,672	△103,016
現金及び現金同等物の期首残高	288,214	289,102
現金及び現金同等物の四半期末残高	145,541	186,085

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自平成29年1月1日至平成29年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	遊園地事業	ゴルフ事業	ホテル事業	不動産事業	土木・建設 資材事業	計		
売上高								
外部顧客への売上高	2,035,450	509,150	1,024,669	76,318	136,343	3,781,932	—	3,781,932
セグメント間の内部売上 高又は振替高	1,817	5,440	12,204	11,852	4,333	35,648	△35,648	—
計	2,037,268	514,591	1,036,874	88,170	140,676	3,817,581	△35,648	3,781,932
セグメント利益又は損失(△)	313,533	28,036	△17,030	50,241	15,576	390,356	△175,610	214,746

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用△175,722千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成30年1月1日至平成30年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	遊園地事業	ゴルフ事業	ホテル事業	不動産事業	土木・建設 資材事業	計		
売上高								
外部顧客への売上高	1,978,753	466,321	938,530	77,929	234,083	3,695,617	—	3,695,617
セグメント間の内部売上 高又は振替高	1,918	5,539	11,631	11,039	7,375	37,504	△37,504	—
計	1,980,671	471,861	950,161	88,968	241,458	3,733,122	△37,504	3,695,617
セグメント利益又は損失(△)	268,893	5,930	△36,802	56,411	45,364	339,798	△160,970	178,827

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用△161,675千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。